

# イオラニ、 プナホウへの道



ドクター高橋俊明  
心理学博士  
ドクター高橋塾長  
宮崎県出身。東京教育大  
理学部生物学科卒業。東  
京教育大教育学部心理学科で修士号取得、ハ  
ワイ大心理学部で博士号取得。1968年に川崎  
市、69年に文京区、そして77年にホノルルに  
塾を設立。2015年は、塾からカメハメハ校に2  
人、ハナハウオリ校に3人、イオラニ校に35人、  
プナホウ校に70人合格。  
Web: [www.juku-in-hawaii.com](http://www.juku-in-hawaii.com)  
☎ 808-949-3366 / 808-679-5612 (日本語)

## 【その126】不安の心理学

この時期、受験生の親は、胃の痛くなるような不安を感じがちです。そんな不安に悩む父兄に、私は「それは、合格への第一歩です。親が不安になればなるほど、子の合格が近づくものです。だから、変な話ですが、安心して大いに不安になつてください」と言います。その理由は、自信満々の父兄に予想外の結果が待っていたり、極限の不安に悩まされる父兄ほど、細微にわたった万全の配慮がなされ合格を勝ち取ってきたりしてきた現実を、40年以上見てきたからです。中国の古典書「菜根譚(さいこんたん)」(洪自誠著)にある「逆境こそ、当初本人は気付かないことが多いが、チャンスなのだ」という考えに通じます。

### 2種類の不安

ハワイ大学で恩師Dr. マツセラ(元ハワイ大臨床心理学教授)に出会うまで、私は不安に2種類のものがあるなどとは夢にも思っていませんでした。留学して間もないある日、マツセラ教授を訪れると、何か深く考えた顔で、当時20代の私の顔をじっと見つめ、「どうして君には不安がないのだ」

とききなり切り出したのです。「とんでもない。はくは不安だらけです」と即答すると、教授は断定するかのように「いや、君には不安が全くない。私にはそれがよく分かる。なぜだ」と語気強く突っ込んできました。当時、留学生生活に大きな不安を持っていた私は、一瞬、かわかっているのかと思いましたが。しかし、教授は真剣でした。「戸惑いながらも、「今学期の成績がとて不安です。まだ博士号がいつ取れるか、それまで資金が持つかどうかも大いに不安です」と正直に話すと、教授は手を左右に大きく振って、「私はそんな浅いレベルの不安を言っているのではない。心の基底部にあるベイスリックな不安のことを言っているのだ。普通、博士課程の学生は誰でも、そこに物すごい不安を抱えている。この学部の教授たちだって、多くがそうだ。なのに君にはそれが無い。なぜだ」…私は、狐につままれのような気持ちで教授の部屋を出ました。

### 本源的不安

その時以来、恩師の言う2種類の不安について熟考を重ね

ました。そして思い出しました。それは、自分という者が分からなくなった15歳の時、出家覚悟で宮崎市にできたばかりの仏智寺の門の中に学校の帰りに一人で入ったこと、仏法の真偽を実感すべく命を懸けた18歳、そして19歳で気付いたこと…、それまでは、マツセラ教授の言う本源的不安にどっぴりつかっていた自分が、その時を機に、教授の言う深層の不安ときっぱり決別した人生に入ったこと、などです。

何に気付いたのか、それは、「菜根譚」の語源となった「菜根(硬い菜根をかみしめるように、苦しい境遇に耐えることができる)、人は多く、このことを成し遂げることが出来る。人は、逆境によつてのみ磨かれる」の教えと同じです。私自身の言葉で表現すれば、「自然、あるいは人生というものは、一人一人に初めから優しいまなざしを注いでいる。一見、不本意に見えることが起きても、この優しいまなざしは常に注がれている」ということです。この時をもって、私は、失敗を恐れ、人生の冒険者に変身しました。大変なことに直面すればするほど、それまで経験したことのない挑戦心が湧きだし、最終的に目標を達成するという体験を積み重ねてきました。実は、この信念こそ、私が塾生に受験を通して伝えたいことなのです。

### 合格への道

毎年11月になると、私は、一人の女子学生のことを思い出します。私の次男と同期にプナホウ校を卒業したので、彼女もすでに27歳になっています。当時5年生の彼女が来塾したのは、11月上旬のことでした。「プナホウ校に進学したい」という彼女の学力を調べてみると、4年生にも届かないものでした。1月のSSATまで、2ヵ月しかありません。普通なら、「今回の受験を見送って」と、戦わずしてあきらめたところでしたが、本人の固い意志が私を突き動かしました。「菜根譚」に「巧みよりも拙ない方が力強い」という話があります。私は、それを現実のものにしようと思ひました。わずか2ヵ月の間に、4年、5年、6年生の教材を完了し、彼女は、見事、プナホウ校に合格しました。それから7年後、彼女の両親が、彼女がオールAで卒業し、希望の大学に進学したとの報告に来塾しました。この家族から、私は、「全ては信念で決まる」と再確認しました。今受験を迎えている生徒や父兄の皆さまも、最終的には「信念の強い方に勝利は微笑む」という事実を、再認識していただきたいと思ひます。